

令和 2 年度
資料第 2 号

令和 2 年度
北海道優良米生産出荷優良事例
～北海道優良米生産出荷共励会審査概要報告書～

令和 3 年 3 月

一般社団法人 北海道農産協会

は じ め に

北海道優良米生産出荷共励会は、本年度で第58回となり、この間関係の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

令和2年は、春作業は順調に進んだものの、移植前半には急激な気温低下や強風に見舞われ、地域によっては深刻なダメージを受けました。また移植後も一旦は好天で生育が回復、良好に推移したものの、6月後半には記録的な日照不足の影響を受け、再び初期生育は停滞傾向に陥りました。しかし、7月に入ると天候が安定し生育は回復が見られ、稔実障害の回避と適正な籾数を確保するとともに、出穂してからも高温が続き、良好な登熟条件の中、製品歩留が向上、多収と高品質・良食味な産米出荷に至っております。

北海道米の作柄は、すべての地域で平年を上回り、北海道農政事務所公表による全道の10a当たり平均収量は581kgで作況指数106の豊作となりました。

一方、日本穀物検定協会の米の食味ランキングでは「ゆめぴりか」「ななつほし」「ふっくりんこ」の3品種が特Aに評価されました。道内食率については、前年度を2ポイント上回る88%と高い食率を維持していますが、引き続き北海道米の評価向上に向け、さらなる生産技術の向上を図り、継続した良質・良食味米の安定生産に努めることが重要です。

さて本年の共励会については、新型コロナウイルス感染症が道内でも拡がる中、各地で推進いただきましたところ、移植栽培の個人の部、2件の参加出展を賜り感謝申し上げます。また審査におきましても、この影響を受け、審査委員間での書面並びに一部リモートによる審査を1月末から2月上旬にかけて行い、部門の賞を選考し、2月26日に現地調査を経て、各賞を正式に決定致したところです。

ここに第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会の審査概要および最優秀賞受賞の方の米作りと経営についてご報告しますので、令和3年産以降の良質・良食味米安定生産の参考にご活用頂ければ幸いです。

最後になりましたが、本共励会の実施に当たり多大なご協力を頂いた関係各位に対しまして、改めてところからお礼申し上げます。

令和3年3月

一般社団法人 北海道農産協会

目 次

1. 第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領	1
2. 第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査基準	3
3. 第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査委員会委員名簿	7
4. 第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査報告	8
5. 第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会受賞者名簿	10
6. 第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会最優秀賞受賞者現地報告	
移植栽培部門 個人の部 最優秀賞	11

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領

1. 目 的

高い生産技術により良質・良食味米の出荷実績を挙げており他の範となる生産者を表彰し、その取組みを関係者に広く周知することにより、北海道米の食味・品質向上により商品性を高めるとともに、稲作の経営の安定に資する目的で実施する。

2. 主 催 一般社団法人 北海道農産協会

3. 後 援 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター 北海道、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会 北海道農産物集荷協同組合

4. 参加資格および手続き

(1) 道内で水稻を作付けする個人・生産グループ・法人（原則として北海道の優良品種を全面積作付けしていること）を対象とする。

但し、過去3カ年以内の最優秀賞受賞者は同じ栽培部門（「移植栽培部門」個人の部、同生産グループの部、「直播栽培部門」個人の部、同生産グループの部）の参加資格を有しない。

(2) この共励会への参加は、市町村米麦改良協会もしくはJA等が農業改良普及センター所長（又は支所長）と協議の上推薦したものを、地区米麦改良協会において選考し推薦する。

① 「移植栽培部門」：個人の部

うるち米、もち米別とする。

作付面積（3カ年平均）はそれぞれ次のとおりとする。

○うるち米 2.0ha以上

○もち米 2.0ha以上

② 「移植栽培部門」：生産グループの部

栽培技術の取組みが一致性を有し、圃場管理技術等においても、省力化や品質向上に向けて共同で効率化を図っている生産グループ・法人であること。

うるち米、もち米別とする。

作付面積（3カ年平均）はそれぞれ次のとおりとする。

○うるち米 20.0ha以上

○もち米 10.0ha以上

③ 「直播栽培部門」：個人の部

うるち米のみとする。

直播栽培の作付面積（3カ年平均）は1.0ha以上とする。

○うるち米 1.0ha以上

④ 「直播栽培部門」：生産グループの部

栽培技術の取組みが一致性を有し、圃場管理技術等においても、省力化や品質向上に向けて共同で効率化を図っている生産グループ・法人であること。

うるち米のみとする。

直播栽培の作付面積（3カ年平均）は10.0ha以上とする。

○うるち米 10.0ha以上

- (3) 地区米麦改良協会からの推薦調書による応募期限は、令和元年12月18日（金）とする。
推薦調書には、令和2年産の「栽培履歴」を必ず添付する。
- (4) 大型施設を利用した生産者については施設の最終出荷実績を用いる。

5. 共 励 項 目

【個人の部・生産グループの部共通】

- (1) 土づくり並びに施肥、栽培管理等
- (2) 収量並びに収量の安定度
- (3) 出荷成績（1等米・高品質米の出荷）
- (4) クリーン農業等の取組み（特別栽培米・Yes! clean米等の取組み）
- (5) 病害虫防除の取組み
- (6) 経営の観点からの評価（低コスト生産への取組み等）

【個人の部】

- (7) 良質米生産のための取組み（品質向上への技術的特徴等）

【生産グループの部】

- (8) 生産グループとしての統一性、目標達成に向けた取組み

6. 審 査

審査は、別に定める審査基準により行うものとする。

7. 審査委員会

この共励会には審査委員会を設け、審査にあたる。

審査委員は一般社団法人北海道農産協会会長理事が依頼し、審査委員長は審査委員会で互選する。

8. 表 彰

審査の結果、その成績が優秀と認めたものを表彰する。

委員長が必要と認めた時は、他の機関および団体の表彰を受けることができる。

9. 調書の個人情報について

推薦調書に記載・提出された個人情報は、入賞通知・賞品などの送付の他、本共励会の運営、および一般社団法人北海道農産協会の事業運営のために、必要な範囲で使用する。また、このため業務委託会社等に情報を開示する場合がある。

入賞発表、審査概要報告書、会報、ホームページ等で優良事例として生産者の氏名他推薦調書の内容を広報する場合がある。

推薦調書の個人情報の取扱いは、当該生産者(集団にあっては集団の長)の承諾を得て取り進める。

個人情報については、一般社団法人北海道農産協会が定める「個人情報保護基本方針」に基づき取り扱う。

10. そ の 他

本要領に定めるものの他、必要な事項は、一般社団法人北海道農産協会会長理事が別に定める。

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査基準 「移植栽培部門」

1. 北海道優良米生産出荷共励会における「移植栽培部門」の審査は、この基準に定めるところによる。
2. 審査は、推薦調書についての審査を主体とし、成績の特に優秀なものについては、その成績をおさめた技術的要因について現地調査を行うものとする。
3. 審査対象期間は、平成30年から令和2年までの3ヵ年とする。
4. それぞれの水稲作付面積（3ヵ年）の基準は次のとおりとする。
 - (1) 個人の部
 - 第1部うるち米 2.0ha以上
 - 第2部もち米 2.0ha以上
 - (2) 生産グループの部
 - 第1部うるち米 20.0ha以上
 - 第2部もち米 10.0ha以上
5. 審査は、次の審査項目毎に3ヵ年の成績を基準として採点する。但し、冷凍米飯などの業務用途米等の低蛋白米ニーズの無い品種や特殊な栽培の技術、収量、品質等の成績は除く。
 - (1) 土づくり並びに施肥、栽培管理等 51点
 - ア. 透排水性改善 (15点)
溝切り、心土破碎、融雪促進、稲わら処理等表面水排除のための営農努力について採点する。
(但し、稲わら春鋤込みは減点対象とする。)
 - イ. 施肥量、施肥方法並びにケイ酸質資材等土壌改良資材の施用 (9点)
北海道施肥標準量（北海道施肥ガイド2020）を目安として採点する。
 - ウ. 堆厩肥、稲わら等の有機物施用 (9点)
10a当たり500kg以上の堆厩肥施用を基準に採点する。
 - エ. 移植時期、栽植密度 (12点)
各育苗形式毎の栽培基準に基づいて採点する。
 - オ. 乾燥方法 (6点)
二段乾燥実施の有無により採点する。
 - (2) 収量並びに収量の安定度 20点
作付する上位3品種が地帯別作付指標に合致し、かつ95%以上の作付率であることを原則とする。
 - ア. 収量 (10点)
3ヵ年平均の10a当たり収量について、農政事務所の当該市町村の10a当たり平年収量を当該市町村の地帯別ふるい目幅別重量分布状況の数値で補正した値と比較して採点する。
 - イ. 収量の安定度 (10点)
10a当たり収量の3年間の変動係数に基づき採点する。
 - (3) 出荷成績 20点
 - うるち米
 - ア. 低たんぱく米出荷率 (15点)
精米たんぱく質含有率6.8%以下の出荷比率について採点する。
該当品種はゆめぴりか、ふっくりんこ、おぼろづき、ななつぼし、ほしのゆめ、きたくりんとする。

ただし、「ゆめぴりか」は7.4%以下、「おぼろづき」は7.9%以下の出荷比率とする。

- イ. 1等米出荷率 (5点)
1等米の出荷率について採点する。

○もち米

- 1等米出荷率 (20点)
1等米の出荷率について採点する。

- (4) クリーン農業等の取組み 6点
特別栽培米・YES! clean米、有機JAS、環境保全型農業の取組面積に応じて採点する。

- (5) 病虫害防除の取組み 3点
発生対応型防除の励行などの確な病虫害防除の実施状況に応じて採点する。

- (6) 経営の観点 10点
(低コスト生産の実践度など)からの評価について採点する。

- (7) 個人の部については、良質米生産についての意識と目的達成のための努力について採点する。
10点

- (8) 生産グループの部については、生産グループとしての取組み(グループとしてのまとまり、目標達成に向けた取組み)状況について採点する。
10点

6. 順位の決定は、上記の各部門毎に各審査項目の合計点(両部とも120点、小数点第2位以下を四捨五入)に基づき、審査委員会において決定する。

以上

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査基準 「直播栽培部門」

1. 北海道優良米生産出荷共励会における「直播栽培部門」の審査は、この基準に定めるところによる。
2. 審査は、推薦調書についての審査を主体とし、成績の特に優秀なものについては、その成績をおさめた技術的要因について現地調査を行うものとする。
なお、審査対象は「うるち米」のみとする。
3. 審査対象期間は、平成30年から令和2年までの3ヵ年とする。
4. それぞれの直播作付面積（3ヵ年平均）の基準は次のとおりとする。
 - (1) 個人の部（うるち米） 1.0ha以上
 - (2) 生産グループの部（うるち米） 10.0ha以上
5. 審査は、次の審査項目毎に3ヵ年の成績を基準として採点する。

(1) 基本技術	41点
ア. 融雪促進、	
土作り（透排水性改善、稲わら処理、土壤改良資材・有機物施用）	(9点)
施肥	(6点)
施肥量（基肥・追肥）	
北海道施肥標準量（北海道施肥ガイド2020）を目安として採点する。	
イ. 湛水直播・乾田直播別技術	(8点)
湛水直播：出芽促進技術	
【種子予措（吸水・催芽・カルパーコーティング）・落水期間】	((2点×3))
均平施工	(1点)
直播と移植のローテーション	(1点)
乾田直播：田畑輪換	((1点×3))
均平施工	(2点)
漏水対策	(2点)
種子予措	(1点)
ウ. 播種期、播種量	(6点)
播種期、播種量の目安に基づいて採点する。	
エ. 除草剤の適正使用	(6点)
剤の選択・処理時期・合計処理回数	
オ. 乾燥方法	(6点)
二段乾燥実施の有無により採点する。	
(2) 収量並びに収量の安定度	28点
ア. 収量	(16点)
3ヵ年平均の10a当たり収量について、農政事務所の当該市町村の10a当たり平年収量を当該市町村の地帯別ふるい目幅別重量分布状況の数値で補正した値と比較して採点する。	
イ. 収量の安定度	(12点)
10a当たり収量の3年間の変動係数に基づき採点する。	
(3) 出荷成績	8点
1等米出荷率（1等米の出荷率について採点する。）	

- (4) 病害虫防除の取組み 6点
発生対応型防除の励行などの確な病害虫防除の実施状況に応じて採点する。
- (5) 直播栽培に当たって創意工夫のある取組みについて採点する。 10点
(低たんぱく米生産の取組み等も含む)
- (6) 直播栽培に係わる経営の観点からの評価について採点する。 7点

6. 順位の決定は、上記の各部門毎に各審査項目の合計点（両部とも100点、小数点第2位以下を四捨五入）に基づき、審査委員会において決定する。

以上

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査委員会 委員名簿

	所 属	役 職 名	氏 名
委員長	北海道 農政部 生産振興局	技術普及課 （上川農試技術普及室） 上席普及指導員	李家 眞理
委 員	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター	作物開発研究領域長	杉山 慶太
委 員	北海道 農政部 生産振興局	技術普及課 主査（普及指導）	内田 博康
委 員	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 中央農業試験場	水田農業部 部長	渡邊 祐志
委 員	北海道農産物集荷協同組合	業務部 係長	遠藤 章弘
委 員	北海道農業協同組合中央会	農政対策部 米穀農産課長	平野 茂貴
委 員	ホクレン農業協同組合連合会	米穀総合課 課長	佐藤 直樹

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査報告

一般社団法人北海道農産協会主催の第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会の審査委員を代表して審査概要を次の通り報告します。

1. 令和2年度の気象経過と水稻の作柄

令和2年は融雪がかなり早く、春耕期は順調に推移するとともに、播種期も平年より1日早まり、5月4半旬の低温寡照により苗乾物重が軽めなものの、移植時の草丈及び葉数はほぼ平年並となりました。

移植作業は平年より1日早くなりましたが、5月20日前後にかけ急激な気温低下や降霜・強風のため、植傷みを生じた圃場が見られ、特に道北地域でその影響は大きくなりました。

6月前半は高温多照で生育は良好に転じ、植傷みの大きい圃場を除き、葉数増加や茎数確保は順調に推移しましたが、6月後半には記録的な日照不足の影響を受け生育は停滞傾向に陥りました。

しかし、7月は比較的穏やかで生育には回復が見られました。また、前歴期間・冷害危険期間を通じ、稔実に影響を及ぼす低温にも遭わず、早期異常出穂も少なめとなりました。出穂期は平年より1～2日早く、8月は高温傾向で初期登熟は良好に経過しましたが、8月後半になると降雨がなく乾燥気味の圃場が散見されました。

成熟期は平年に比べやや早い程度で、収穫作業は9月中旬以降の断続的な降雨や一部秋まき小麦のは種作業との競合により、やや停滞もみられました。

これらの結果、北海道米の作柄は農政事務所公表の作況指数で106「良」となり、品質面でも製品歩留が高まったため、近年の中では最も高品質となっています。食味においても登熟初期の高温でアミロースが低下し、タンパク質含有率も高い稔実歩合と千粒重の増大によって上昇が抑えられ、過去2年に比べ低タンパク米が増えています。

2. 審査結果

本年は新型コロナウイルス感染の影響から地域での出展選考が難航し、移植栽培個人の部2点の出展に留まりました。審査にあたり、各地区米麦改良協会がJA、地区農業改良普及センターと協議して提出いただいた推薦調書に基づき、平成30年～令和2年の3年間の出荷実績や栽培管理について検討、採点を行いました。また、審査時期がコロナ感染防止集中対策期間のため、書面並び一部WEB協議にて審査を実施しています。

次に最優秀賞受賞者を中心に、優良米生産に向けた技術内容や具体的な取組についてご紹介いたします。

1) 移植栽培の部 最優秀賞受賞者

(1) 個人の部 うるち米 島田幸慈氏（門別町農協・日高町）

島田幸慈さんは、奥様並びに長男ご夫婦とともに、経営面積38.5ha、うち20.7haで水稻栽培を行っています。

山間部に圃場があるため日照がやや不十分なうえ、灰色低地土の粘土地が主体で、透水性が悪く厳しい環境にあります。ですが、低タンパク米生産を目標に稲わらは全量搬出し、表面水の早期排水に向け、溝切りやサブソイラーを施工して、圃場の乾燥化に努めています。

特筆すべきは、持ち出した稲わらを近隣の軽種馬農家や酪農家と連携して堆肥化し、毎年再び圃場に還元し地力増進を図っている点です。

基本技術においても、老化苗防止を意識したは種計画や育苗管理、また適切な水管理を行うべく定期的な畦塗りと、日々のは場観察で冷害危険期の深水など生育に合わせたこまめな水管理を実践しています。

また、コスト低減では土壌診断結果を活用した肥料銘柄や施肥量決定、コンバインや乾燥調製施設の共同利用を行い、省力化に向けては直播栽培や密播育苗栽培の試験栽培を開始、令和3年からはドローンによる共同防除も計画されています。

全道的に不作や高タンパク傾向であった前2か年でも、安定した高位な収量水準や低タンパク米100%を達成しており、地域の低タンパク生産に寄与するとともに、一部は直売も行って所得向上を図っています。

2) おわりに

今回惜しくも、特別優秀賞になられた大友仁司氏も島田氏に劣らず、堅実で丁寧な栽培管理を実践し、地域において安定した生産出荷実績を挙げられております。

お二方とも、乾田化を強く意識した圃場管理、稲の生育状況に寄り添った細やかな水管理、毎日の圃場観察やJA・農業改良普及センターから得られる各種情報を活用した発生対応型の病害虫防除を実践しておられ、さらには地区内の畜産農家と連携した優良な堆肥作りや圃場への還元などを長年に渡って行っている点には頭の下がる思いです。

これらの取組は昔から基本的な実施事項にはなっており、その効果も理解はされていますが、近年はなかなか実践までには至っていない現況であり、改めて基本技術の重要性が認識されたと思います。

審査対象年のうち、令和2年は豊作年ではありましたが、平成30年は不作年、令和元年も低タンパク米の出荷率は低く、収量も満足いく年ではなかった中で、各自が基本技術を忠実に実践した上で、技術の工夫を重ねて良質良食味米の安定生産に努力しており、その積み重ねによって収量と品質が安定し、北海道米全体の品質向上、評価を高める地道な推進力となっています。

終わりに本共励会に参加頂いた関係者各位の生産努力に心から敬意を表して審査報告といたします。

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会審査委員長
北海道農政部生産振興局技術普及課（上川農業試験場技術普及室）
上席普及指導員（農業革新支援専門員） 李家真理

第58回（令和2年度）北海道優良米生産出荷共励会 受賞者名簿

※敬称略

1. 移植栽培部門

【個人の部】

【うるち米 2ha以上】

表彰名	氏名	市町村名	所属農協名
最優秀賞	島田 幸慈	日高町	門別町
特別優秀賞	大友 仁司	士別市	北ひびき

【もち米 2ha以上】

【出展なし】

【生産グループの部】

【うるち米 20ha以上】

【出展なし】

【もち米 10ha以上】

【出展なし】

2. 直播栽培部門

【個人の部 うるち米 2ha以上】

【出展なし】

【生産グループの部 うるち米 20ha以上】

【出展なし】

第58回(令和2年度)北海道優良米生産出荷共励会最優秀賞受賞者現地報告

移植栽培部門 個人の部

[うるち米] 最優秀賞

受賞者氏名 島田 宰 慈

住所 沙流郡日高町字豊郷483-3

1 経営の概要

経営耕地面積 38.5ha

水稲作付面積 20.7ha

	平成30年	令和元年	令和2年	3カ年の平均
水稲作付面積	20.7ha	20.7ha	20.7ha	20.7ha

注) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付け面積。()内はこれらを含む作付け面積

2 家族の就農状況

(令和2年12月20日現在)

本人・続柄	年	性別	平成30年	令和元年	令和2年
本人	64	男	○	○	○
妻	63	女	○	○	○
長男	38	男	○	○	○
長男の妻	38	女	○	○	○
(備考)					

3 立地条件と稲作の経歴

(1) 地勢・立地条件

日高町は日高管内の西部に位置している。2006年に旧日高町と門別町が飛び地合併し、日高山脈のふもとに広がる日高地域と太平洋に広がる門別地域に分かれている。

管内の気象は比較的温暖であるが、太平洋海岸線では海洋性気候、内陸部は大陸性気候である。積雪量は海岸線地帯では少なく、山間部では70cmの積雪がある。

水田の多くは灰色低地土が多い。

耕地面積は約9,450haで、令和2年度の認定農業者は251戸、軽種馬、酪農、肉牛に加え、園芸作物ではハウストマト、ハウス軟白長ねぎ、ハウスアスパラガス、ハウスピーマン等が作付けされている。



(2) 稲作の経歴

日高町の水田面積は1,363haで令和2年度の作付面積は310ha、作付農家戸数は57戸となっている。

転作率は77%と非常に高く、牧草等の飼料作物の作付けが増加している。

島田氏の住む日高町豊郷地区は海岸線より10kmほど内陸に位置し、町内を流れる波恵川に沿って農地が広がっている

島田氏は昭和51年に就農、現在は水稻の他には飼料作物や直売用の野菜等を作付けしている。

4 稲作技術の特徴

(1) 透水性改善とケイ酸資材の投入

水田の多くは灰色低地土であり、そのため排水性向上を意識した土づくりに努めている。

山間部で日照時間が少なく（登熟条件が不良）、粘土地で透水性不良のほ場が多い等、恵まれない栽培環境の中でも、稲からは全量搬出、堆肥化しほ場に還元して地力増進を図っている（近隣の酪農家と耕畜連携を実践）。

水田に投入している堆肥は2年以上堆積、年3回の切返しを行った完熟堆肥のみを施用している。

従来はケイ酸資材を連用していたが、土壌分析を定期的に行っており、その結果によって施用を判断している。ここ数年は土壌中のケイ酸含量が高まったことから幼形期前後の施用に切り替えており、R2年は液体ケイ酸資材の葉面散布を2回実施した。

(2) 施肥量と施肥法

定期的に土壌診断を行い、結果に基づき、肥料銘柄を選定、ほ場ごとに施肥量の微調整を行っている。そのことにより肥料費は以前より少なくなったと実感している。

初期生育の確保を第一に考え、側条施肥を行っている。施肥量は一例だが、ほ場に合わせた施肥の実施により、収量性を確保しつつ低タンパク米生産を目指した施肥量を設計している。

項目		年次		平成30年			令和元年			令和2年		
		N	P	K	N	P	K	N	P	K		
施肥 (kg/10a)	全層	4.5	5.1	3.6	4.5	5.1	3.6	4.5	5.1	3.6		
	側条	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3		

(3) 作付け品種

ななつぼし、ゆめぴりかの2品種を作付けしている。低タンパク米生産を意識しており、ゆめぴりかは登熟条件の良いほ場等に作付けするなど工夫をしている。

また、将来に向け、省力化技術の導入を検討しており、令和元年からは高密度播種短期育苗栽培にも挑戦している（品種はななつぼし、0.5ha）。

項目		年次	平成30年	令和元年	令和2年
作付面積	品種名	ななつぼし	14.0ha	14.0ha	14.0ha
		ゆめぴりか	6.7ha	6.7ha	6.7ha

(4) 育苗と移植

健苗を適期に移植することに重点を置き「老化苗防止」を心がけ、は種作業を計画的に進めている。そのため以前よりは種日が遅くなり、育苗日数の短縮化が進んでいる。

苗は徒長しないよう意識し、こまめな換気、適切なかん水を実践している。

項目	年次	平成30年	令和元年	令和2年
育苗形式名		中苗マット	中苗マット	中苗マット
移植時期		5月20日～5月30日	5月20日～5月30日	5月20日～5月30日
栽植密度	畦幅 × 株間	33cm × 13cm	33cm × 13cm	33cm × 13cm
	m ² 当たり株数	23.3株/m ²	23.3株/m ²	23.3株/m ²

(5) 水管理

定期的に畦塗りをを行い、適切な水管理ができるよう努めている。毎日はほ場観察により、水深調整をこまめに行い水温・地温上昇に努めている。前歴期間および冷害危険期は、生育に合わせ深水管理を実施しており、危険期では18～20cmの水深を維持している（水深板も利用）。

(6) 病虫害防除

主要な病虫害の発生を見落とさないように毎日ほ場の観察を欠かさず、発生を確認した場合は、すぐに対処できるようにしている。面積が多いことから家族で分担しながら、ほ場の観察を行っている。

殺虫殺菌剤散布は自走式防除機、除草剤はラジコンボートで行っている。防除を行うに当たっては、日々の観察に加え普及センターや農協のFAX情報等をもとに日程を決め、適期防除に努めている。

(7) 収穫調製

乾燥調製施設、コンバインを6戸で共同利用し、コスト低減を図っている。

農協や普及センターから送られる営農技術情報を活用し、適期～やや早めの作業で余裕を持った作業を心がけている。

毎年行われる刈り取り講習会等には必ず出席し、ほ場ごとの収穫の順番を決め、適期収穫するよう努めている。

5 産米出荷実績

平成30年は全道的にタンパク質含有率が高く、ゆめぴりかの基準品出荷割合の低い年であった。島田氏は30年は収量は若干低いものの、全量一等米、低タンパク米を出荷しており、3年間平均でも全量一等米、低タンパク出荷を継続している。

項目	年次	平成30年	令和元年	令和2年	3ヵ年合計
総出荷数量 ①		1,503俵	1,670俵	1,777俵	4,950俵
一等米数量 ②		1,503俵	1,670俵	1,777俵	4,950俵
一等米比率 ②/①		100%	100%	100%	100%
精米タンパク質含有率6.8%以下仕分対象品種出荷数量		1,215俵	1,220俵	1,262俵	3,697俵
精米タンパク質含有率6.8%以下		1,215俵	1,220俵	1,262俵	3,697俵
精米タンパク質含有率6.8%以下出荷率		100%	100%	100%	100%

6 特徴的な取り組み

- (1) 日高町豊郷地区は周辺に畜産、軽種馬農家が多く点在しており、機械作業を行う場合は、近隣の軽種馬農家、畜産農家に一声かけてから行うなど、近所との友好関係を意識して取り組んでいる。
- (2) 搬出した稲わらを近隣の軽種馬農家、酪農家に提供し、馬牛糞と交換し、堆肥化し、水田や畑に還元する耕畜連携を実践している。この取り組みは親の代より引き継がれて継続されている。水田には毎年10a当たり3トンの堆肥を施用しているが、土壌分析の数値を見ながら、施肥を調整しており、加里の蓄積や玄米タンパク値の上昇などは今のところ見られていない。
- (3) 将来の労働力不足を補うため、直播栽培や密播育苗栽培の試験栽培に取り組んでおり、令和3年からはドローンによる共同防除を計画している。
- (4) 数年前よりタンパク計付きコンバインを導入し、ほ場ごとにタンパク仕分けを行っている。
- (5) 地区内の農地が耕作放棄地とならないようにするため、平成27年に周辺の農家3戸と作業受託法人を設立した。受託法人では近隣の畜産農家から飼料作物の管理や収穫作業を受託しており、地域内の雇用の受け皿、畜産農家の生産性向上にも寄与している。

(執筆者：日高農業改良普及センター日高西部支所 支所長 渡 邊 博 司)